

平成25年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
1	ゲット ユア ドリーム事業	特定非営利活動法人 子どもの環境を守る会Jワールド	子どもわかもの課	<p><b>【会長】</b> 「自分の夢をつかむ中高生の力を引き出し、それを子どもが自覚し、成長する」好循環を生み出す事業であったと評します。3年間の協働事業の実績がJワールドが取り組むテーマに対する学校及び地域の理解を促し、連携する関係を築いてきたと思います。一方で、Jワールドは学校から見た子どもたちと地域に係る問題を知り、学校との「共通の言葉」を得る努力を重ねた点も良かったです。そうした積み重ねで子どもに関わるステークホルダー(NPO、市役所、学校、地域等々)が連携する態勢が形成されつつあることは、まさしく協働のまちづくりの具現化であり、一つのモデルになると期待しています。</p> <p><b>【委員】</b> ・学生達にとって将来の進路の参考になる事業である。加えて、地域の大人達との交流等を通じ、地域づくりに非常に有意義であろう。ことに「全域型」と「地区中心型」という二段構えで、市内全域、地域(地区)両側面から、若者の地域参加意識の啓発ができることも評価できる。 ・行政、学校、(民間)企業、地域とのつながりによるガバナンスにより、これからの松戸市の協働が育成されていることが楽しみである。</p> <p><b>【委員】</b> ・ファシリテーター講座(子どものリーダーシップ、自主性を育てる)は、大変効果的であると思った。評価できる。是非続けてほしい。 ・地域、学校との連携が上手くいっている。 ・ワークショップで聞いた、話した「夢」を、各自のレベルにどう落とし込み、達成感を持たせるかが大切だと思った。 ・事業の発展、方向性について、子どもわかもの課の委託事業として、継続するとの事で評価したい。</p> <p><b>【委員】</b> 担当課と共に対象となる各学校に説明をしに訪問したことが事業成果に結びついていると思われ、協働の成果として挙げられると思う。中高生の時期に教師、親以外の大人との交流の機会を持てることは貴重な経験であり、市民活動ならではの課題解決方法であり、創意工夫にあふれていると感じました。このような場が各方面に広がることを期待します。</p> <p><b>【委員】</b> 幅広い知識や経験を持った大人が中高生と将来について語り合い、共に考え、サジェスチョンすることは中高生の夢を育てていくものと思います。今後も各学校との連携を密にして、継続的な活動を期待します。</p> <p><b>【委員】</b> 3年間の協働事業で、市内の中学校・高校とのパイプが着実に出来た様なので、それを生かし、更に発展した活動を期待します。</p> <p><b>【委員】</b> 中高生に夢と希望を与える事業として、先生から直接、提案や指導を頂くという、学校との協力関係を築いたことは、事業を3年間継続したことの大きな成果であると思います。また、今年度からの子どもわかもの課委託事業で、地域との連携がさらに強化されることを期待しております。</p>

平成25年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
2	昔のあそびとわらべうたⅢ事業	昔のあそびと遊ぼう会	六実支所	<p><b>【会長】</b>  「昔のあそび」を軸に地域のいろいろな世代の市民を結ぶ取り組みは、地味だけれど地域のコミュニティ力を醸成するうえで、大変重要な取り組みです。遊ぼう会の熱意で3年間続いてきたことに敬意を表します。一方で、協働の相方である六実支所の動きが見えず伝わってこなかったのは残念です。市役所における支所の位置づけや役割の制約があると察しますが、支所は管轄地域の「まちづくりセンター」の機能を発揮できる可能性があると思えば、遊ぼう会と一緒に地域のどのような課題をどのように解決に取り組むのかの戦略を持つても良かったと思います。</p> <p><b>【委員】</b>  ・近年衰退しつつある「昔あそび」（けん玉等）を軸に、地域づくりが促進されることに期待したい。  ・昔あそびやわらべうたといった古き良き伝統を次の世代に語り継ぎ、老若の美世代交流は、地域づくりの核となり得るだろう。現在は、比較的狭い区域での取り組みであるが、私はこれでよいと考えている。市全域の規模になると、今までのきめ細かさが薄れる可能性がある。このような活動の充実により、他の地域でも、こうした取り組みが行われるモデルとなることを望みたい。（※美世代交流=多世代交流）</p> <p><b>【委員】</b>  ・松戸市内に幅広く受け入れられ、効果があり、評価できる。（各地域への広がりがすばらしい）  ・地元、専修大学付属高校との連携の可能性があることが、評価できる。（次世代育成事業としての発展の可能性が思う。）</p> <p><b>【委員】</b>  六実支所との協働事業という地域密着型の事業ゆえに、地域コミュニティを豊かにするために有意義な取り組みとして評価できる。定例会を開催しながら、近隣地域への出前講座や他団体との連携が生まれ、広く公益性が確保できたと考える。また、今後はメンバーの確保について課題としているが、定例会の開催日時を検討するなどの他、メンバー間のスキルアップ研修の機会を提供する工夫が望まれる。</p> <p><b>【委員】</b>  昔あそびはDSやスマホ等のゲームと違って、子供たち同士や大人・親とのコミュニケーションの手段としても意義のあるものだと思います。これからはますます昔あそびやわらべうたの輪を広げていってほしい。</p> <p><b>【委員】</b>  六実以外の松戸市民への浸透度はダントツだと思います。六実に限らず、松戸全域で活動して頂きたいです。遊びだけではなく、文化継承としても有意義な活動ですので、今後も活躍して頂きたい。</p> <p><b>【委員】</b>  イベント参加者数という目標を達成していけるのは、事業内容の充実もさることながら、3年間で築き上げた他団体との連携が大きな力になっていると思います。今後も他団体との連携を更に強化し、イベントを企画、開催して地域を盛り上げていかれることを期待しております。</p>

平成25年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
3	家庭用廃食油回収による地域活性化事業	NPO法人 松戸エコマネー「アウル」の会	環境政策課 商工振興課	<p><b>【会長】</b>          廃食油の回収と組み合わせでエコマネーを地域へ普及させ、流通させようとした協働事業でしたが、3年間で振り返るとアウルの会の努力に比して、エコマネーの市民への普及及び流通は成果をあげることができず、大変厳しい社会実験であったと思います。また、協働の相手は環境政策課と商工振興課の2課であり、それぞれの課の持つ事業や課題をアウルの会を交えて3者ですり合わせ、共通目標を設定する苦労があったかと想像します。          アウルの会の今後の進む方向、戦略と戦術を立て直すのが適当だと考えます。その際に、廃食油の回収に限れば、市民の賛同や参加は得やすい取り組みであると思うので、それを地域の仕組みにしていけることが検討できるのでないでしょうか。例えば「かわさきかえるプロジェクト」(川崎市のNPO)のように地域の仕組みとして普及定着を成功させている事例があるので、そのような成功事例を研究することを勧めます。</p> <p><b>【委員】</b>          ・環境に配慮した取り組みは重要である。          ・効率性を求めるところもあるが、基本的には、小さな意識が地球をも動かす。その意味で、当該団体の活動の意義は大きい。「環境」という第一義的な目的に加え、廃食油回収による経済効果が期待でき、今後も続けてほしい事業である。          ・回収場所の偏在という問題も指摘されているが、私はまず重点地区を中心に活動されてもよいと考える。松戸市は基礎自治体というには広域的である。その意味でも人口6~10万人ぐらいをターゲットにし、そこからじっくり活動を拡大していくのも、NPOとして地に足が着いた活動になるのではないだろうか。</p> <p><b>【委員】</b>          ・3年間段階的に事業の広がりがはっきりわかる発表でした。          ・環境(エコ)と商業活性化策が身近な方法で行われている点が評価できる。今後も息長くがんばっていただきたいと思います。(アウルマネーが使われ始めてよかったです。峰月、八矢庵、パン屋さんなど)</p> <p><b>【委員】</b>          廃食油の回収そのものだけでも環境保全の普及については有意義であると考えているが、そのこととアウル券の発行、商店会の活性化や地域活性化までのプロセスについてはもう少し詳細な計画が必要と思われる。参加する受入れ事業者が主体的に動けるためには、新たな工夫がいるのではないかと、今後の進め方については現在参加しているメンバーの意向等を参考にして、再構築することに期待します。</p> <p><b>【委員】</b>          3年間の協働事業により、アウル券の認知度も増してきており、これからも町会や商店会の取り込みにより、なお一層の周知が図れるのではないのでしょうか。今後の活躍を期待します。</p> <p><b>【委員】</b>          3年間の協働事業で、広報活動などの効果はかなりあったと思います。知名度はあがったので、今後松戸の全域での活動に早く広がっていく事を応援したいと思います。</p> <p><b>【委員】</b>          廃食油の回収拠点及び回収量、アウル券の配布枚数及び使用枚数については、何れも前年度を上回っており、確実に市民への認知度が深まってきていることは、3年間の積極的な取り組みの成果であると思います。今後もアウル券の利用促進による、エコと商業の活性化を期待しております。</p>

平成25年度実施分 評価コメント(協働事業)

NO	事業名	団体名	事業担当課	評価コメント
4	松戸の農業をサポート 農業ボランティア 養成事業	松戸農業サポート 協議会 野良の会	農政課	<p><b>【会長】</b> 市民が市内の身近な農業に関わる「農業ボランティア」を養成することについて、協働事業の準備段階から野良の会と農政課は、このテーマに取り組んで来た経緯があり、それが成果を生み出した大きな要因であると評します。 この協働事業は見方を変えれば、野良の会、農政課、当事者である農家と3者が共通課題を設定し、それに対して連携する態勢づくりの過程です。協働事業を介してそういう連携態勢を地域へ定着させることを願います。今後の取り組みに期待します。</p> <p><b>【委員】</b> ・「農」を核とした「参加」意識啓発は、非常に期待できる。都市（農村自治体に対し）であるこの松戸で、農業体験を出来ることは、貴重である。「グリーンツーリズム」という言葉を某省が推進しているように、この松戸でも十分活用できる可能性を秘めていることがわかった。 ・集合場所からの移動についても問題があるようだが、近隣の駅に集合し、徒歩での楽しみを味わってもらうことも良いと思う。 ・農政課との連携だけでなく、文化観光課とのコラボレーションも考えられる。是非、活動を広げ、松戸のために頑張ってもらいたい。</p> <p><b>【委員】</b> ・「市民参加型農業」(喜びを伝える)→ボランティア養成事業として、成功していると思う。 ・収穫の喜びや楽しみをいかに市民に伝えるか、今後はPRをどうするかが大切である。(ボランティアの家族や一般市民が参加出来る行事を企画、実施して行く等、可能性がある。)それがこの事業の継続と発展に役立つと思います。</p> <p><b>【委員】</b> 地域の農業を支えるための仕組みは、今後もニーズが拡大するのではないと思う。農業ボランティアが53名まで増員できたことは大きな成果と言えるが、この仕組みを市内に普及するために継続した活動が望まれます。楽しく有意義なやりがいのある農業ボランティア活動を広く地域に伝えることがポイントかと思われ ます。</p> <p><b>【委員】</b> 農家でも高齢化により、耕作放棄地の拡大が予想されています。ボランティアの力で農業をサポートすることはきっとその阻止にもつながります。今後も市民参加型農業を根付かせてほしいものです。</p> <p><b>【委員】</b> 成果がすぐに数字として見えないものですが、今後の広がりが楽しみです。</p> <p><b>【委員】</b> 事業成果であるボランティア数及び農家会員数を増やし目標を達成されたことは、団体と担当課がそれぞれの役割分担を明確にし、着実かつ積極的に取り組んだ成果であると思います。今後も団体と担当課が連携を強化し、3年目に向けてますますステップアップされることを期待しております。</p>